

道徳の時間で活用する ～友情、信頼～

平生町立平生中学校 岡田 明子

1 本場面におけるポイント

- 振り返りの場面で活用する。
- 道徳的価値についての考えをさらに深め、発展させる。
- 書く活動を通して、自分の考えを深く見つめていく。

2 授業の実際

1 主題名 友情

資料名「雨の日の届け物」(出典あかつき 中学生の道徳1年)

2 ねらい

真の友情の尊さについて理解を深め、尊敬と信頼に支えられた友情を育てようとする道徳的実践意欲を培う。

3 展開

(1) 導入 自分の生活を振り返る

教師：あなたが「友達っていいな。」と思うのはどういうときですか。

生徒A：一緒にいて楽しいとき。

生徒B：相談にのってくれるとき。

(2) 展開 資料について

教師：「わたし」が恥ずかしくなったのはなぜ？

生徒A：ひとみが勉強を教えてくれなかったことを反省し、謝るつもりですずらんを届けにきたのではないかと思ったから。

生徒B：雨だからと学校に置いていったのに、ひとみは雨ですずぬれになっても、私の家に届けてくれたから。

生徒C：ひとみがこんなにも思ってくれていたなんてわからなかったから。

□ 指導上の留意点等

ワークシートに個人の考えを書かせた後、班で話し合いをさせた。その後、班で出した意見をまとめたものをホワイトボードに記入させ、全体場で発表させた。

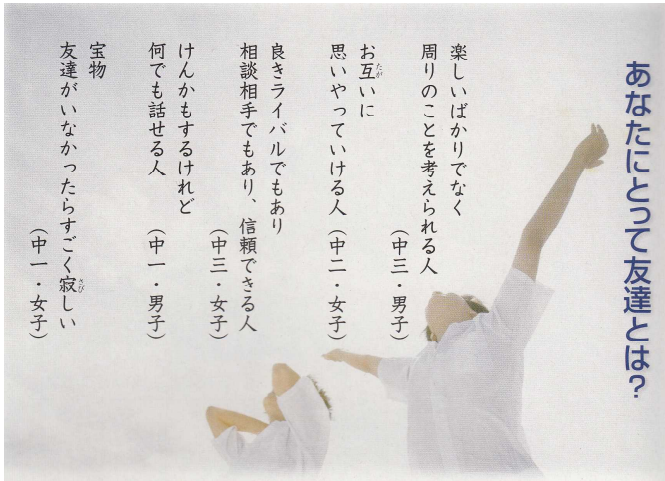
(3) 終末 あなたにとって友達とは？

教師：「私たちの道徳」の関連ページを読んでみよう。

その後、自分にとっての友達とは何かを考え、書いてみよう。

□ 指導上の留意点等

終末として「私たちの道徳」の関連ページを読ませ、偉人の言葉などから真の友情について考えを深めさせる。その後、「あなたにとって友達とは？」をテーマに、自分の考えを記入させた。



中学校用 P. 61

友人との関係は、楽しく、頼もしい。一方で、私たちはしばしば、その関係に「つまずいたり、気まづくなったりする。」

「友情は成長の遅い植物である。」
 というのは初代米大統領ジョージ・ワシントンの言葉だ。そして、友情という名に値するようになるためには、幾度かの困難な打撃に耐えなければならぬ、と続く。

表面的な仲間関係にしがみついたり、無批判に相手に同調したり、自分が傷つくことを恐れて心を開かない関係からは、真の友情は生まれまいだろう。

心から信頼できる友を得るために、私たちはどうあるべきなのだろうか。

中学校用 P. 60

「あなたにとって友達とは？」に対する生徒の意見

- ・ ケンカもするけどおたかひにあやまったりできる人
- ・ 尊敬してるし、憧れもある。
- ・ なんでも相談でき、お互いの良いところ、悪いところを言いあえる人。

私はこの話を読んで、けんかをする友達も友達なのかなと思った。私は友人と意見が違ってもけんかしたりもう友達ではいらなくなるのではないかなと思う。いつも意見を合っている。でも、それではお互いのことがわからず、自分の意見を主張ばかりで、真の友情を育めるのではないかなと思った。けんかや仲違いは友人とつきあう中で通って行く道だと思ひ、それを恐れて自分の意見を隠さなければいけない。

授業を振り返っての生徒の感想

3 実践を振り返って

「私たちの道徳」に載っている偉人の言葉や、中学生の言葉などを活用することで、ねらいについて考えを深めさせることができた。資料で扱った信頼関係だけでなく、「互いの過ちを正し合える関係」など様々な方向に意見が広がっていた。これらの意見は、後日、教室に掲示し、短学活で紹介した。

